



2026年5月12日

各 位

会 社 名 株式会社 GENDA  
代 表 者 名 代表取締役社長 CEO 片岡 尚  
(コード番号：9166 東証グロース市場)  
問 合 せ 先 常務取締役 CFO 渡邊 太樹  
(TEL 03-6281-4781)

### 北米事業説明会の要旨について

株式会社 GENDA（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：片岡 尚、以下「当社」）は、昨日、当社執行役員米国事業最高責任者 伊与田篤をスピーカーとして、機関投資家を対象とした「北米事業に関する説明会」を開催いたしました。

本説明会における公正な情報開示（フェア・ディスクロージャー）の観点から、要旨を以下の通り公表いたします。

#### 記

##### 1. 業績の現状と見通し

昨今の売上低迷については、景気や競合の影響よりも、システム統合に伴う現場のオペレーション不備が主因であると分析しています。一方で、理想的な運営ができているミニロケは昨年を上回る数字で推移しており、サービス自体の需要には自信を持っています。現在、株価が低迷している最大の要因はアメリカ事業の立ち上がりが見えていないことにあると認識しており、早期の業績回復を最優先課題としています。

##### 2. 業務アプリ「Kiddleton Force」による業務改善

現場の立て直しに向けて、北米の無人店舗に特化した業務アプリ「Kiddleton Force」を開発・導入しました。このアプリにより、現場での現金カウント作業や銀行入金の手間が削減され、低下していたスタッフの店舗巡回頻度は回復傾向にあります。また、AI がリアルタイムデータに基づいて効率的な巡回ルートを算出するほか、スマートフォンのカメラでメーター数値を自動読み取りする仕組みも構築しました。これにより、作業の標準化とデータ化が同時に進んでい

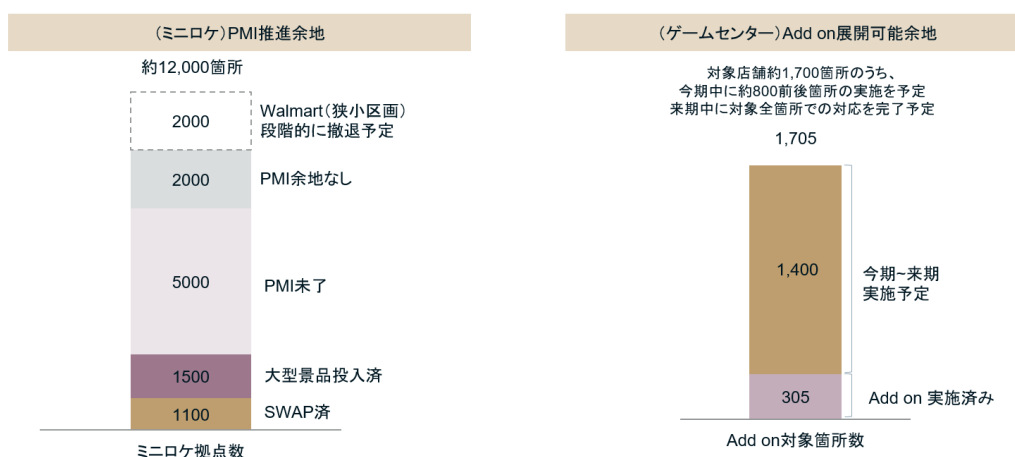
す。上期はこの新しいアプリにラウンダーが適応するためのリードタイムが必要であり、この夏からオペレーションが正常化できるよう努力しています。

### 3. PMI 施策と店舗展開

PMI 施策としては、ミニロケで実施する「SWAP（既存ゲーム機との入れ替え）」及び「既存大型クレーン機を活かした大型景品への入れ替え」と、ゲームセンターで実施する「Add on（既存のゲームセンターに機器を追加設置）」を実施しています。

ミニロケにおいては、オペレーション不備の起きた SWAP は新規での実施を停止し、既に SWAP した店舗のオペレーション改善に注力しています。代わりに、CAPEX がゼロである「既存大型クレーン機を活かした大型景品への入れ替え」を中心に実施していきます。

投資としては、「Add on」と新規出店を中心に行います。Add on は機器を既存のゲームセンターに新たに追加するだけで、追加されたゲーム機の売上が純増することに加え、その店舗の集客力向上に寄与するため、既存の他の機械の売上向上の効果もあります。



出店戦略では、集客力の高い大手シネコンやレストランチェーン内への展開を加速させており、特にシネコンはアミューズメント施設との親和性があります。こういった現地のチェーン企業にまとまった店舗数で出店できるようになったのは、M&Aによって当社の店舗網が拡大したことが大きな要因です。NENが有するWalmart店内の既存拠点（出入口付近の狭小区画）撤退は、M&A前からの想定通り数年かけて撤退する予定となっています。その代わりに、SWAP施策による売上増大効果を背景に、従来の狭小区画比で約5~10倍の広さを持つテナント区画への新規出店が進捗しています。

景品面では、日本の有名IPの割合を6~7割まで引き上げる方針です。将来的には、アプリで収集した地域ごとの詳細な売上データを活用し、各店舗の特性や顧客ニーズに合わせた景品を配送できるようにしていきたいです。

#### 4. 組織運営・PMI およびリスク管理

オペレーションの課題が顕在化して以降、日本側からの人員増強によりガバナンスを強化しています。コスト面では、管理部門の人員整理による効率化や、家賃に相当するレベニューシェアの手数料率の引き下げ交渉など、収益性向上を図っています。法規制については各地域のライセンスや景品上限額を遵守しており、これが他社の参入障壁にもなっています。インフレや関税による原価上昇に対しては、景品設定の調整や調達努力によって利益率を維持することを想定しています。

以 上